

ドイツ国際大会出場日本選手団がハンブルグ日本人学校を訪問

ドイツ国際大会の翌日、2月27日に、試合を終えたばかりの日本選手団（コーチ2名、選手14名）が、ハンブルグにある日本人学校を訪れた。今回の訪問は昨年引き続き2回目。日本人学校からの、「日本の伝統文化である柔道を直接子供に触れさせたい」、「日本のトップ選手との交流は子供たちにとっても大変良い刺激になる」という要請に応えた形である。

交流ではまず各選手の紹介から始まり、日本人学校代表生徒から歓迎の言葉があった後、選手が1人ずつ自分の得意技を披露した。質問コーナーでは「子供のころの夢は何ですか?」という質問や、「握力は何キロですか?」などの質問があり、塚田選手が「子供のころの夢はパン屋さんでした。」などと終始和やかな雰囲気で行われた。花束贈呈の後、生徒と選手で記念撮影を行い訪問は無事終了した。



今回の訪問を終えて、ハンブルグ日本人学校教頭 藤田 昭 先生からは「遠征中の体調管理の難しい中、全員の得意技を披露していただき、子ども達ばかりでなく、教職員も大感激しました。日本に帰って柔道を始める子どもも出たほどです。」とお礼の言葉が届いた。



引率した中村行成コーチのコメント。「今回の訪問をハンブルグ日本人学校では非常に喜んでいただいた。ドイツ国際大会の直後ということで体は疲れていたが、行って本当に良かった。子供たちにとっても、一流選手の技

を実際に見られる機会は少ないのでいい刺激になっただろうし、我々にとっても、今回の訪問を通じて、ドイツで生活している子供達が、柔道に興味を持ってくればとても嬉しいことだ。」